

長子保護者 様

唐津市立佐志小学校
校長 原口 毅

平成30年度 佐志小「学校評価」アンケート結果と考察

6月と2月上旬に第2回学校評価アンケートのお願いをいたしました。約85%の保護者の皆様にご回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。

以下、この2回のアンケートにおける保護者と児童の意識の差を中心とした集計の結果とそれに対する考察をまとめていますので、ぜひ、ご家庭での教育、しつけの改善に生かしていただけたら幸いです。学校でも、このアンケート結果をこれからの学校教育活動の重点化や改善に生かしていきたいと思いをします。

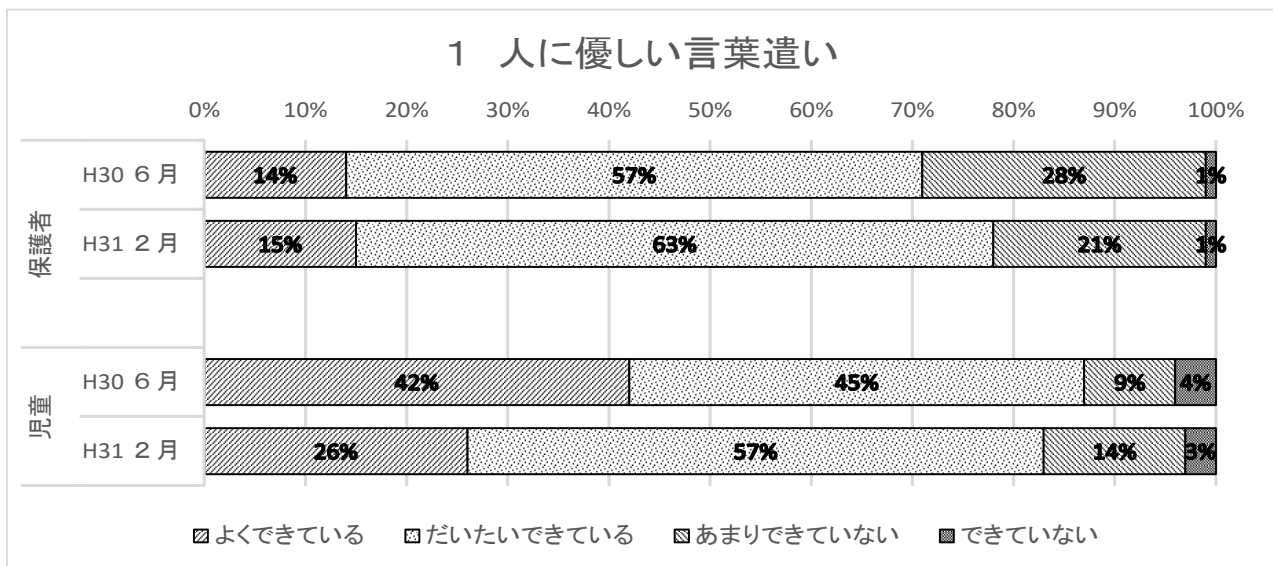
※達成率(%)は、「よくできている」「まあまあできている」を合計した割合です。

1 自分を見つめ他者を理解し、人や社会とつながろうとする子どもを育てます。

① 人権感覚と実践力の向上

達成率

対象	質問項目	H30 6月	H31 2月
保護者	お子さんは、学校の合言葉「さし人」にある「人に優しい言葉づかい」ができていますか。	71%	78%
児童	あなたは、人に優しい言葉づかいができていますか。	87%	83%

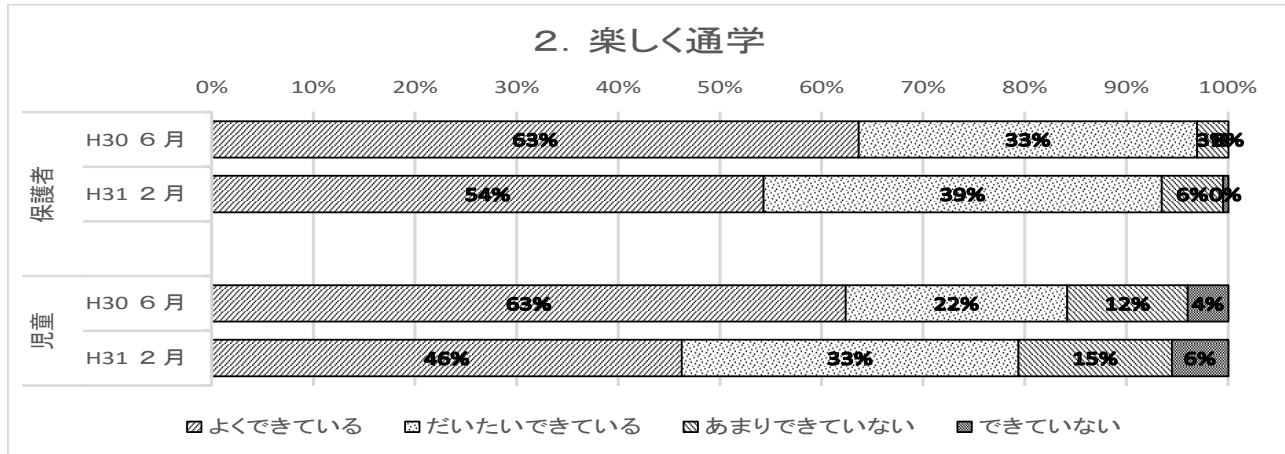


保護者の回答は微増でしたが、児童の達成率が5%下がっていることが残念でした。言葉遣いについては、本校児童の課題ととらえ「呼び捨てをしない。」「チクチク言葉をやめ、ぽかぽか言葉を使おう。」「自分が言われて嫌な言葉は、友達にも言わない。」といった取組を継続していますが、全体的になかなか改善に結びついていません。来年度は本校児童の最重点課題ととらえ、道徳や学活の時間を有効に使って、自分の言葉遣いを振り返り・改善していこうとする意識を高める取組を進めていきたいと思いをします。授業参観等でもぜひ取り上げていきたいと考えています。ご家庭での取組もよろしくお願いいたします。

②不登校傾向にある児童に対する細やかな支援

達成率

対象	質問項目	H30 6月	H31 2月
保護者	お子さんは、楽しく学校に通えていますか。	96%	93%
児童	あなたは、学校に行くことが楽しいですか。	85%	79%



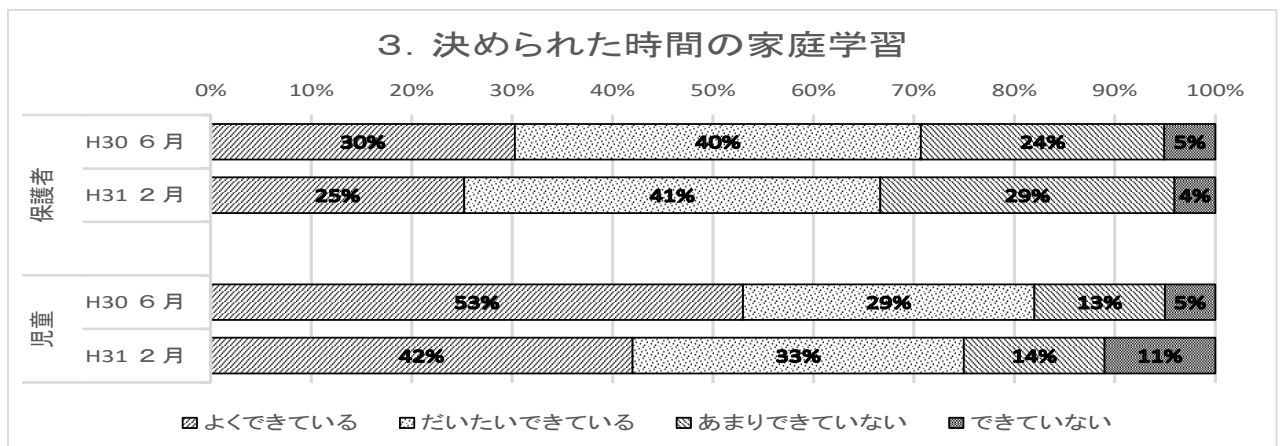
9割以上の保護者の方に「わが子は楽しく学校に通えている」と感じてもらっています。それに対して児童の肯定的な思いは6ポイントほど下がります。不登校傾向の児童には担任だけでなく、児童生徒支援教員や養護教諭、級外職員の他にSC(スクールカウンセラー)やSSW(スクールソーシャルワーカー)といった外部機関とも連携してできるだけだけの対応をしているところです。学校は集団生活の場ですから、我慢しなくてはならないことや嫌でもやらなければならないこともたくさんあります。しかし「友達と話したり遊んだりできる」「知らなかったことが分かる」「できなかったことができるようになる」といった楽しさにたくさん触れられる場でもあります。様々なアンケート等をしっかり活用して児童が持つ不安要素を的確につかみ、日常的に「楽しさ」を感じ取れる手立てを今後も積極的に取り入れていきたいと思います。

2 家庭学習の習慣がきちんと身につく、自分の考えをきちんと言える子どもを育てます。

③ 学習習慣と学習意欲の向上

達成率

対象	質問項目	H30 6月	H31 2月
保護者	お子さんは、ご家庭で、決められた時間学習できていますか。	70%	66%
児童	あなたは、お家で、決められた時間学習できていますか。	82%	75%



保護者の評価が4ポイント、児童の評価が7ポイント下がっています。低学年20分、中学年40分、高学年60分という最低学習時間は決して長い時間ではないのですが、家庭学習の「自覚」と「定着」が十分ではないという結果の現れでしょう。とはいえ、75%の児童は「できている(家でちゃんと学習している)」と回答していますので、残り25%の児童の意識改善が急務であると思われます。家庭に帰ればTV・ゲーム・マンガ等の誘惑もあると思います。その中でいかに集中し・目的を持って家庭学習に臨むかは学校での意識付けがポイントでしょう。発達段階に応じて「何を・どの程度・どれだけの時間で」といったスケジュールを児童自身に事前に立てさせるような手立ても必要だと考えます。また、「させられ感」が強い課題よりも、児童自らが選択し「やってみたい・やってみよう」という意識が持てるような課題の工夫も取り入れていきたいと思ひます。

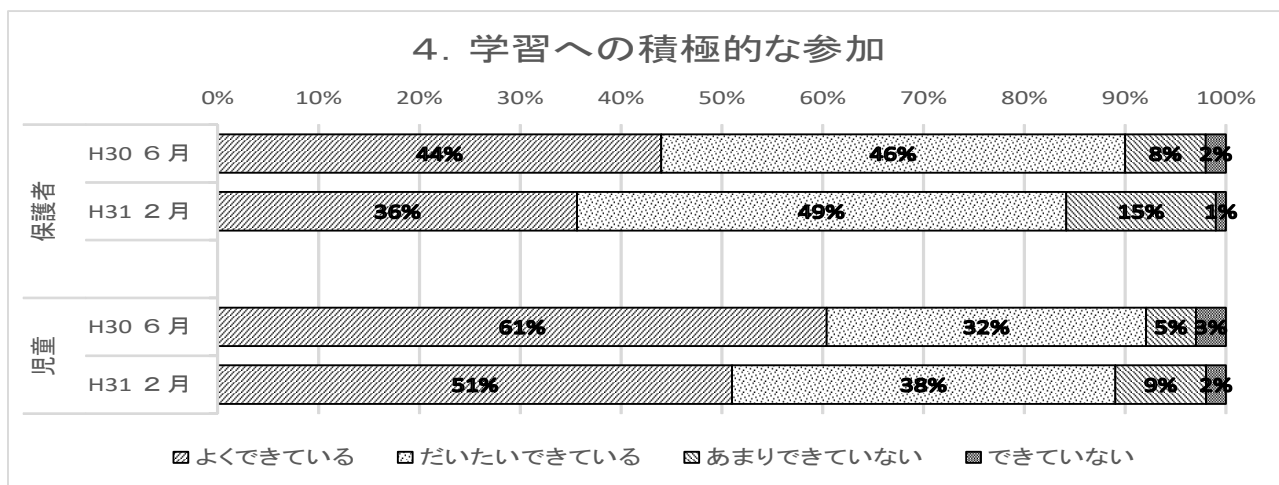
家庭学習の習慣が身につけている子どもは、中学以降の学力の伸びが大きいと言われていますが、残念ながら本校の児童は学習状況調査の結果からも家庭学習時間が短いことが課題となっています。この時間が決して長いと感じないような習慣づけを全てのご家庭にお願いしたいと思ひます。

④ 指導方法の改善

※保護者の質問内容と児童の質問内容が異なっていますが、学習への関わりという点で一つにまとめています。

達成率

対象	質問項目	H30 6月	H31 2月
保護者	お子さんの音読を聞いたり、宿題をみたりしていますか。	90%	85%
児童	あなたは、グループやクラスで話し合う学習で考えを言ったり、聞いたりしていますか。	93%	89%



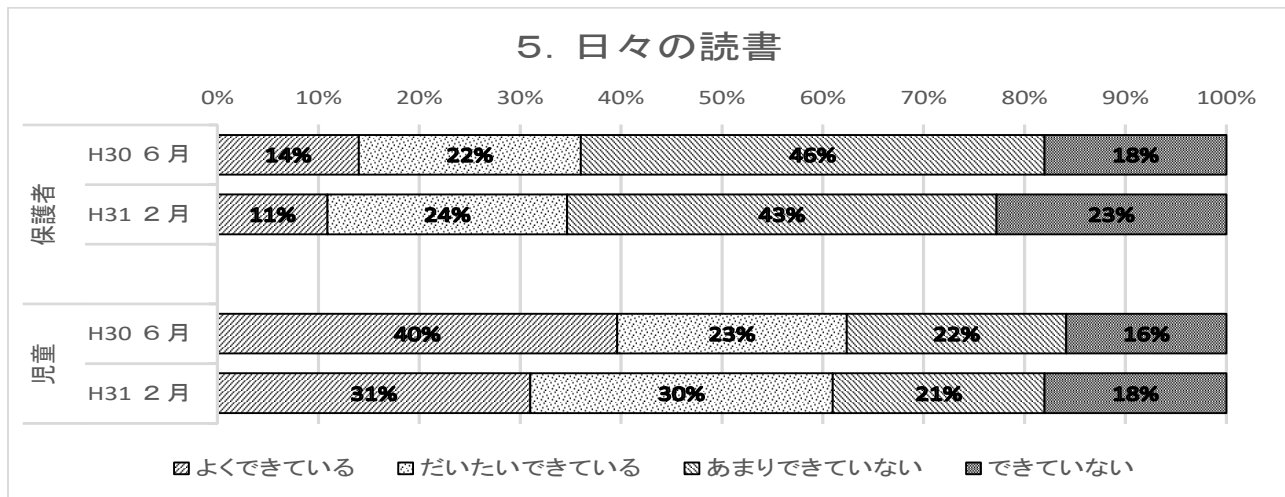
保護者の方の評価はやや下がっていますが、8割強の方がお子さんの宿題に関わっていると答えられています。児童の中には、常に丁寧に一生懸命取り組んでいることが伺えるノートやプリントを提出する子もいますが、なかなかうまくできない子もいます。当然、その差が学習の定着に影響してきます。宿題を教えるのではなく、宿題の取り組み方をチェックし、ほめたり励ましたりすることが保護者の役割と考えます。今の時代は保護者の方々もたいへんお忙しく、時間の制約もあろうかと想像できます。しかし、児童の将来を見据えて「家庭学習の意味」や「学習習慣づくりの大切さ」について再認識いただくことで、家庭での関わりについて「できることから・できるぶん」実行していただければ助かります。

また、児童への質問は児童相互で話し合っ解決するような場で、積極的に意見を出したり友達の意見に耳を傾けたりしているかという内容です。このような「主体的・対話的な学び」という学習スタイルを積極的に取り入れ、グループ内やクラス全体で主体的に話し合うような授業が定着してきています。児童自身が「しっかり話したり聞いたりしている」という自覚と、「話し合っよかつた」という達成感・充実感が十分に味わえるような工夫を今後も行っていきたいと思ひます。

⑤ 読書活動の充実

達成率

対象	質問項目	H30 6月	H31 2月
保護者	お子さんは、家庭でほぼ毎日読書をしていますか。	36%	35%
児童	あなたは、学校や家でほぼ毎日、本を読んでいますか。	63%	61%



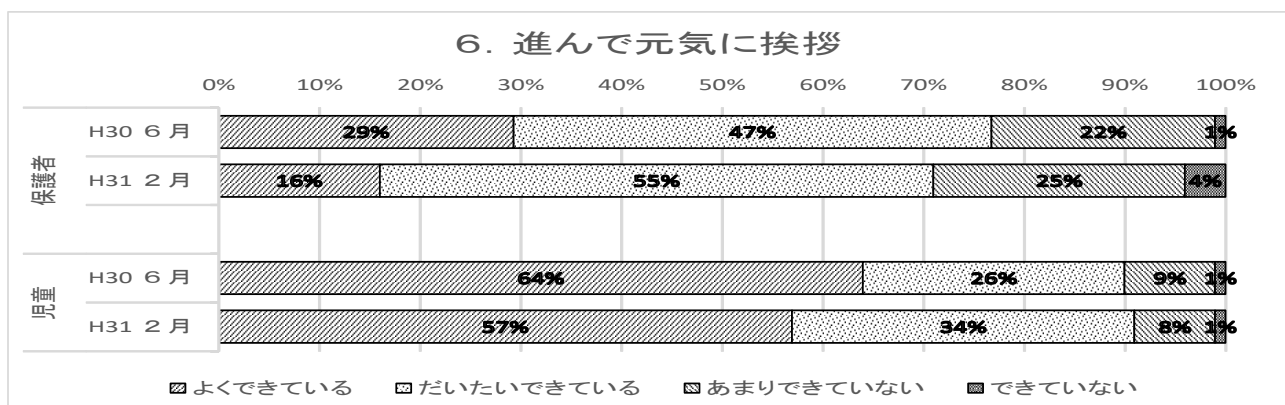
保護者の回答と児童の回答に大きな差があります。これは「学校で」という条件が児童の質問に入っている影響でしょう。つまり「学校では目標冊数を設定して読んでいるけれども、家庭では読んでいない」ということとなります。しかし、目標冊数達成のために「借りるだけ」に終わっている児童も少なくありません。自分が「借りて・読んだ」感想を書きためておくような手立ての工夫が必要でしょう。また、この読書習慣においては個人差がかなり大きいということも読み取れます。学校がある日に読書の時間を取るのには難しいかもしれませんが、宿題をした後などに5分でも読書の時間を作ってはどうでしょう。本は自分のペースで読むことができ、どんな時代になっても「頭と心の栄養」であることは変わりません。

3 明るく安全に学校生活を送り、節度ある行動ができる子どもを育てます。

⑥ あいさつの習慣化

達成率

対象	質問項目	H30 6月	H31 2月
保護者	お子さんは、自分から進んで、元気にあいさつをしていますか。	76%	71%
児童	あなたは、自分から進んで、元気にあいさつをしていますか。	90%	91%

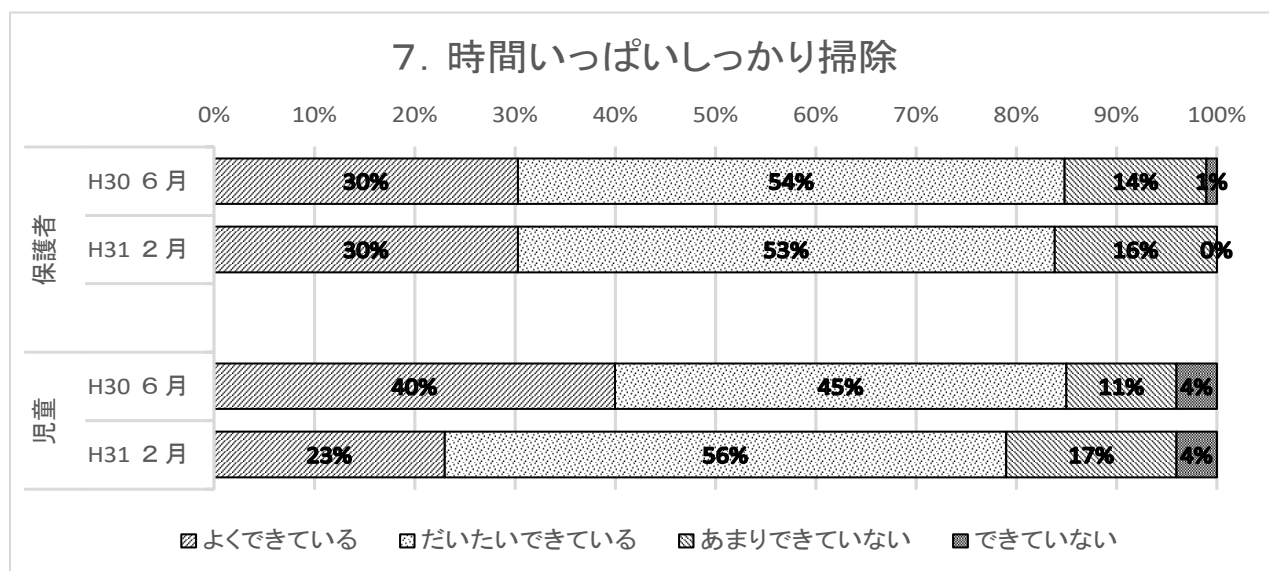


「よくできている」と思っている保護者と児童の意識の差が大きいことがこの項目の特徴です。保護者が家庭や地域での様子を基準としているのに対し、児童は学校での登校時のあいさつを基準にしていることがこの差につながっていると思われます。また、保護者の評価が若干下がっていることが気になります。あいさつは社会で生きていく中での最低限のマナーですし、気持ちのいいあいさつは相手にいい印象を与えます。学校では、あいさつレベル5の設定、朝のあいさつ運動、あいさつ名人の紹介や認定といった継続的な取組を行って「さし人」のさわやかあいさつを推進しています。今年度は、佐志中生徒会による「あいさつの仕方」の話(劇)をしてもらい、その日から児童のあいさつがとて良くなりました。地域・保護者・先輩なども巻き込んだ「あいさつ強化運動」を今後も継続して取り組んでいきたいと思ひます。まずは率先して大人がお手本を見せましよう。

⑦ 掃除の習慣化

達成率

対象	質問項目	H30 6月	H31 2月
保護者	お子さんが、家庭で掃除や片付けをするようにしつづけていますか。	84%	83%
児童	あなたは、おしゃべりをせずに時間いっぱいしっかりとそうじをしていますか。	85%	79%



家庭の片付け、学校での掃除という違いはありますが、今回も保護者と児童の結果がかなり似通ったものとなっています。学校の掃除では多くの児童が始まりの時刻を守り、黙々と雑巾がけをしている姿が見られます。無言掃除の徹底、「おそうじさしすせそ」の指導、掃除の時間の静かな音楽などで、より集中していねいに掃除ができるように継続して取り組んでいます。今年度取り組んだ「縦割り班掃除活動」では、上級生が丁寧に掃除の仕方を教えたり、つつい話しがちになる低学年の児童を優しく指導したりと、一定の効果をあげています。

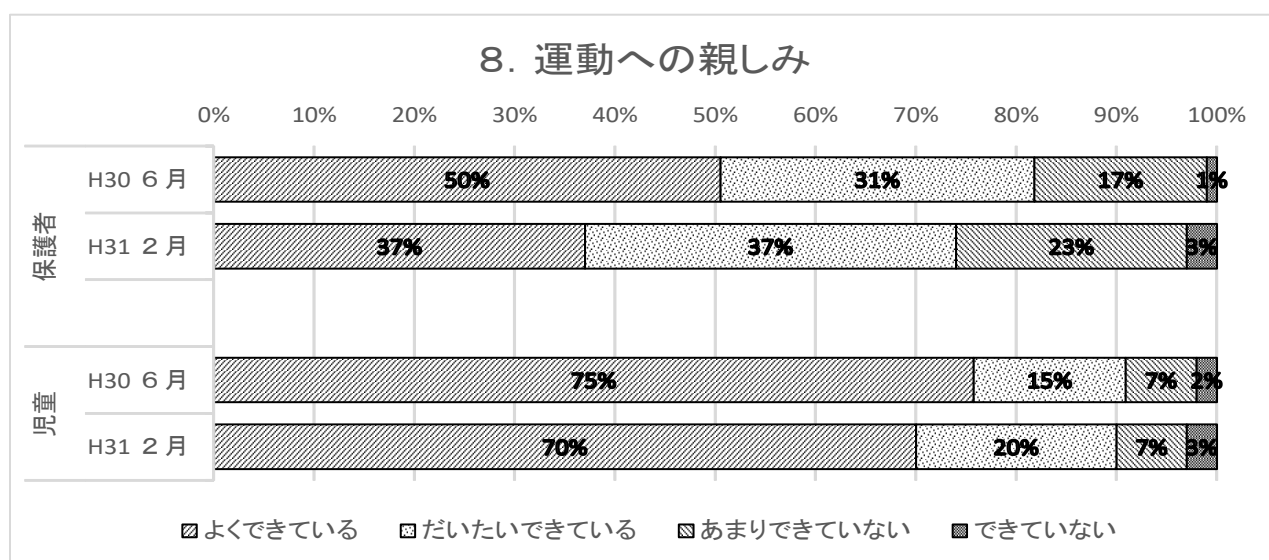
今回の結果には反映されませんでした。が、「あまりできていない」「できていない」と答える児童が「だいたいできている」と答えられるように、これからも全職員で指導を続けていきます。さらに「班縦割り班掃除活動」の機会を増やし、上級生自らがお手本を示すことで、下級生の意識ももっと高めたいと思ひます。

4 共に関わり合う良さを感じながら、進んで運動に取り組む子どもを育てます。

⑧ 運動習慣の改善や定着化

達成率

対象	質問項目	H30 6月	H31 2月
保護者	お子さんは、外で体を動かすなど、よく運動をしていますか。	81%	74%
児童	あなたは、友だちといっしょに外で遊んだり運動したりできていますか。	90%	90%



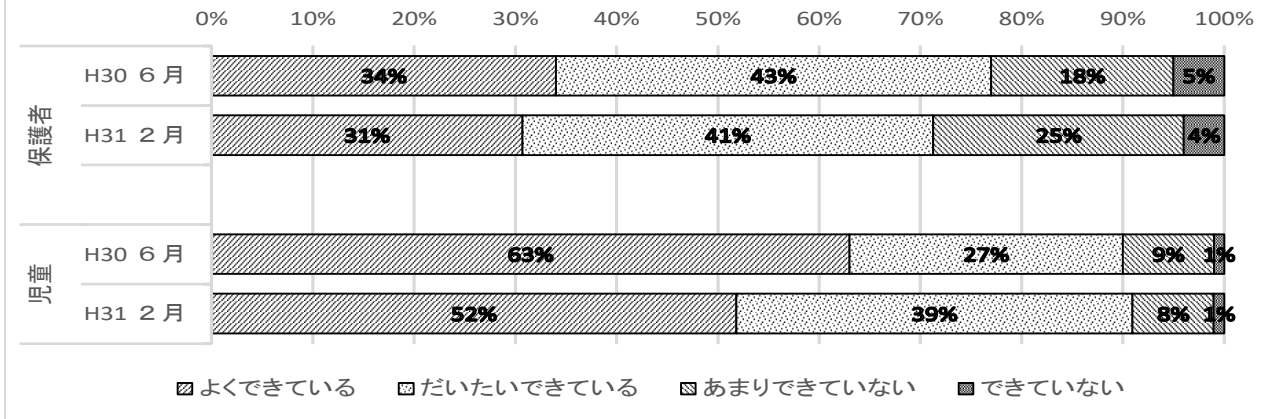
保護者の評価が下がったのは、寒い時期で、かぜやインフルエンザが流行っていたことが関係していると考えています。また、帰宅後や休日はゲーム等の「室内遊び」が多い傾向にあるのも実状であろうと考えられます。しかし、多くの児童が朝、20分休み、昼休みに元気に外で遊んでいます。駅伝やドッジボールのイベントに進んで参加する児童も多く、佐志小の児童は体を動かすことが好きな児童が多いと思います。また、今年度は県保健体育課が推進する「スポーツチャレンジ」に全クラスが積極的に取り組み、5つの学級が県1位の表彰を受けるなど、学校ぐるみで運動習慣づくりを推進することができました。一方で、ほとんど外で遊ばない児童もいますので、「運動への慣れ親しみ」という点で、個別に声かけをするなどの対策を行っていきます。

⑨ 望ましい生活習慣の形成

達成率

対象	質問項目	H30 6月	H31 2月
保護者	お子さんは、1日3回以上歯磨きをする習慣が身についていますか。	77%	72%
児童	あなたは、歯磨きを少なくとも3分程度、1日3回以上していますか。	90%	91%

9. 1日3分3回の歯磨き



この項目では保護者と児童の達成率にかなりの開きがあります。保護者の方は、朝と夜の2回の歯磨きで評価をしていらっしゃると思いますが、約3割の児童が朝か夜、または両方で歯磨きをしっかりしていないということになります。本校児童の4割以上が虫歯保有者であるという現状から、治療と予防にもっと努力が必要だと捉えています。よろしくお願いします。

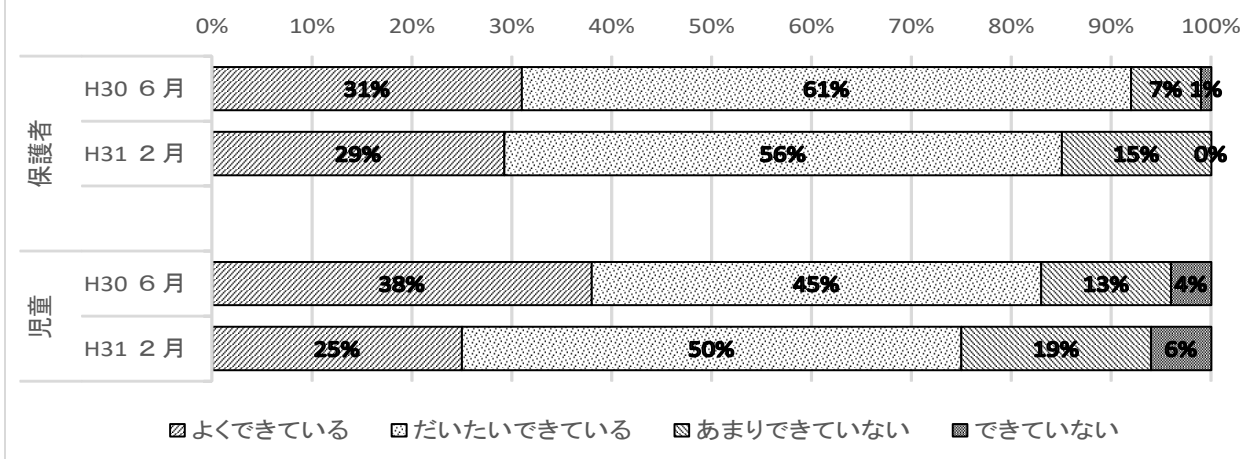
5 集団の一員としてよりよい学校にしようと、課題に気づき、解決の方策を考え、実行する子どもを育てます。

⑩ 気づき、考え、行動する学級集団の形成

達成率

対象	質問項目	H30 6月	H31 2月
保護者	お子さんに、自分で考えて行動するようにつけていますか。	92%	85%
児童	あなたは、学校生活をよりよくするためにどうすればいいか考えて行動できていますか。	83%	75%

10. 自分で考えて行動



本校の目指す児童像は「気づき、考え、実行する」子どもです。日々の生活の中ではそういう場面がたくさんあります。親や先生から言われたことをするだけでなく、気づいたことで、どうすればいいか最善策を考え、それを実行できる子どもに育てたいと思います。そのためには、基本として「自分でできることはさせる」ことが大切だと考えます。学校でも全職員が意識して授業や生活場面で機会を捉えて児童に働きかけをしています。ご家庭でも、失敗してもいいから任せてやらせたり、めんどくさがったり逃げたりしようとしても挑戦させたりすることがとても大切ですね。学校と家庭のブレない取り組み・連携がとても大切になると思います。

※これまでに寄せられた学校へのご意見・ご要望等について【抜粋】

- 授業参観ですが、以前に比べ国語や算数の時間が少ないように感じます。人権や差別の授業も大切だとは思いますが、国語・算数の授業ももっと見たいです。

子どもたち一人一人の活動が確保され、保護者の方がお子様の様子を十分にご参観できるように技能教科（図工や体育、音楽など）が設定されていると思います。しかし、本校で「校内研究」として積極的に取り組んでいる国語や、T.T指導及び少人数指導を取り入れた算数の授業、電子黒板を活用した理科や社会等の授業もぜひご覧になっていただきたいと考えます。今後は、参観授業に偏りがなく、まんべんなく様々な教科にわたった公開授業体制を整えていきたいと思ひます。

- 学校の中での子どもの様子をたまには教えてほしい。低学年の時は、聞かなくてもよく教えていただけました。

低学年は、まだまだ「伝える力」が未発達の間がありますので、連絡帳・お便り・電話等で細かく学校での様子をお伝えしています。中学年以上になれば、自分から学校での出来事や自分の想い、時には悩みなどもご家庭で話して欲しいという期待があります。「学校のことを話さなくなるから」ではなく、「学校での出来事」を話題として、親子のコミュニケーションが活発になるような手立てをぜひご家庭でも試みられてくだされば幸いです。（PTAのノーテレビ・ノーゲームがその一例です。）今後もその一助として「学年・学級便り」や「学校ホームページ」、「さしっ子ノート」などの日記指導をより一層充実させていきたいと思ひています。

- 高学年になり、ためたベルマークやインクを持って行ってくれなくなります。保護者が直接入れることができる「ベルマーク入れ」が玄関にあったら助かるな・・・とも思っています。

学校に持ってくることで子どもたち自身に奉仕の気持ちや「役立ち感」を味わわせるための手立てでもあります。ベルマークやインクカートリッジ回収の意味を今一度、学級やご家庭で伝える必要があると思ひます。来年度は保護者用として玄関に回収箱を設置することも検討させていただきますが、できるだけ子どもたちが届けてくれることも期待しています。

- 給食試食会の時、1年生だからまだうまくつげないのかも知れませんが、具だけの子や汁だけの子が出て、これはどうなのかな？と気になりました。

低学年、特に1年生はまだまだ上手に（バランスよく）つぐことが難しいと思われまひます。しかし、幼稚園・保育園でもすでに経験してきていることでもありますので、必要に応じて教師がサポートしながら（お手本を見せながら）上手につぐことができるようにしていきたいと思ひます。

- 小学校と中学校の行事の時間帯が重ならないよう相談して計画を立てて欲しいです。

小学校と中学校では学校行事等の内容や時期が異なる場合が多いと思われまひます。大きな行事（入学式、運動会、修学旅行、卒業式など）は時期・時間帯が重なっていませんが、小規模な行事等については学校の事情によりやむを得ない場合があることをご理解ください。ただ、年度末に来年度の学校行事についての小・中学校での摺り合わせは行われまひますので、そこでできるだけ重ならないよう調整をしていきたいと思ひます。